

上田高等学校同窓会 中南信支部会報

発行：上田高等学校同窓会
中南信支部事務局
〒185-8501 長野県上田市
松岡翠風(仁太郎)氏
南安齋在住(69期)
全日農書法会副会長

会員の皆様へ 支部長 菅谷昭



中南信支部同窓会会員の皆様におかれましては、それぞれお忙しく、充実した毎日をお過ごしのことと存じます。

さて、この度の衆議院議員選挙は、終ってみれば、民主党の圧勝という形になったわけですが、これには現状を何とか打破するために、一度は政権交代をしてほしいと願う、国民の強い思いの現われであったのではないかと、巷間、耳にするところでございます。私としましては、民主党を主体とする連立政権がこれから政権を担う以上、まずはこの国の今後の有りようを、そして選択すべき針路を、更にはどのような国を創ってい

こうとしているのかを、国民に明確な形をもって示していただくことが必要ではないかと思っております。ただこのところ、新しい政権運営に対して、様々な立場からその先行きを危惧する声が続々出てきますが、私個人としては、今回の選挙にあたっては、国民がそれぞれに熟慮の末に決断した、新たな選択であることも十分認識すべきであり、今まさにスタートしたばかりの時点で、声高にあれこれ物を申すことは控えて、当分の間は多少の混乱はあっても辛抱して、冷静に経過を見守る謙虚で、良識ある姿勢が求められるのではないかと思慮してまいります。

過日、私ども上田高校六〇期の同級会が、秋色深まる別所温泉で開かれ、私も参加してきました。イガグリ頭に黒の制服の仲間たちも、今はその髪が白くなったり、薄くなったり！六〇歳半ば、それぞれに真剣に人生を生き、あるときは順調に、またあるときは悩み苦し

みながら年輪を重ねてきた友らの話に、時の経つのも忘れていました。
ここで加齢現象を、改めて自分なりに少々考えてみました。年を重ねること、即ち長生きすることは、徐々に自らの生き様が変化していく。それは肉面においてはもちろんでありますが、個々の精神面における骨組みも変容していく可能性が容易に想像されます。更にはこのような自己変容が、まさに自らの予期せぬ能力の発現、つまり自己の潜在能力を密かに発見し、生きていることに感動を覚えることにつながるのかなあ、との思いを深くしたところでもあります。

古城の門をくぐった同窓の仲間たちは、年齢に関係なく、それぞれの立場において、自らの潜在能力を十二分に発揮され、世のため、人のために一層尽力されますことを願って止みません。恒例の支部総会での再会を心よりお待ち申しあげております。

～第16回支部総会のご案内～

日時：11月14日(土)

14:30 開場

15:00～16:45 第一部：総会・講演

16:45～18:30 第二部：懇親会

会場：松本ホテル花月

松本市大手 4-8-9 電話 0263-32-0114

会費：¥8,000(学生の方は¥4,000)

第一部のみ参加される方で、'09年度支部年会費

1,000円を払われた方は無料です。

返信葉書で出欠をお知らせください。



記念講演 「金融雑感 ～このごろの金融事情～」

八十二銀行頭取 山浦愛幸氏 (63期)



略歴

- 昭和21年 滋野村(現 東御市) 生まれ
- 昭和44年 東京大学農学部卒業
- 昭和44年 八十二銀行入行
- 平成元年 ロンドン駐在員事務所長
- 平成4年 上田支店副支店長
- 平成6年 県庁内支店長
- 平成8年 伊那支店長
- 平成10年 取締役検査部長
- 平成11年 常務取締役本店営業部長
- 平成13年 常務取締役
- 平成15年 専務取締役
- 平成17年 取締役頭取
- 公職 長野県法人会連合会会長
長野県経営者協会会長

職場訪問 《マスコミ》の巻

今回は県内マスコミで活躍されているお二方に話をうかがいました。

まずお会いしたのは丸山貢一さん(72期)です。信濃毎日新聞社松本本社報道部長として活躍されています。

丸山さんは上田第二中学校出身。中学では野球部に所属していました。グラウンドが隣だったという縁もあって、後に明治大学で活躍した野球部ピッチャー丸山さんからのお誘いもありました。丸山さんへの抵抗感がぬぐい切れない丸山少年は地肩の強さが活かせるようなハンドボール班に入りました。当時、ハンドボール班は全国でベスト8に入るほどの強豪で、丸山さんも全国大会を目指してゴールキーパーとして日々練習に励みました。顧問は「赤鬼」と呼ばれた中島先生でした。練習はきつく、少しでも手を抜くと平手が飛んできたそうです。そのきつい練習をこなせたことが自分の支えになってきたと振り返られています。副将として臨んだ県大会では残念ながら屋代高校に敗退しインターハイ出場はなりませんでしたが、次の北信越大会では宿敵を倒し見事優勝。丸山さんにと



丸山 貢一 さん

つての良き思い出です。大学卒業後、長男ということで長野県に帰るため信濃毎日新聞社に就職しました。第二次オイルショックの影響による就職氷河期で採用人数五名の狭き門を突破しました。入社以来、長野・大町・長野・軽井沢・長野・松本と県内を駆け巡ってきました。大町支局時代は支局長と丸山さん二人

人体制で大町市と北安曇の当時の六市町村を担当していたため、何から何まで自分でこなさなければなりません。それが若き丸山記者にとつての大切な経験になったそうです。今でも深く印象に残っているのが、一九八五年の日航機墜落事故故郷です。長野本社の報道部勤務の丸山さんは、消息を絶た日航機の御巣鷹山での墜落が確認されると現場への急行指示を受けました。写真記者と二人で夜中から翌朝に

かけて御巣鷹山に登り、現場を目の当たりにしました。山深い御巣鷹は無線が通じなかったため、社にリアルタイムで情報を伝えられず、ただ茫然と立ち尽くすしかなかったことが痛恨の極みだったと振り返られています。新聞は記者の取材を通じて得られた事実・裏付け・比較といった信頼ある情報で構成されており、信毎は特に地域の質の高い情報が強みとの自負をもつて仕事に取り組みされている丸山さんです。これからも日常の中で埋もれてしまいがちな重要な事実や世界(普遍性)が見える出来事を県民に伝えていきたいとおっしゃっています。



竹内 昌弘 さん

統一してお会したのは竹内昌弘さん(78期)です。長野朝日放送中南信支社の営業部長として活躍されています。竹内さんは塩田中学校出身。中学では剣道部に所属し、生徒会長としても活動に熱心に取り組んだそうです。小さい頃から星を観るのが大好きだったので天文気象班に入りました。由緒正しい

天文気象班として太郎山の「逆霧(さかさぎり)」の観測に向かうかたわら、月一回の合宿では星が観えなければ麻雀をしていたそうです。明け方には何故か千本ノック。(筆者:これも天文気象班の裏の伝統だったのでしよう。)クラスはまとまりがよく、各クラスに割り当てられた花壇で野菜をくくつて収穫したり、クラス対抗野球を企画して居残り練習に励んだことなどを懐かしんでいらっ

機械商社で仕事に励んでいました。一九九〇年に長野朝日放送が局員募集していることを知りました。どの家庭にもあるテレビ(放送)に以前から興味をもっていた竹内さんは奥さん(当時はまだ彼女でしたが)の後押しもあり応募しました。恐らく千人を超えた応募者の中、難関をくぐり抜け採用されました。配属となった諏訪支局は竹内さん独りの営業拠点でした。商社で営業の腕を揮ってきたものの、番組という商品を広告主に売るという仕事は初めて。研修も無く、上司(先輩)もいない中で、お客様をはじめとした周りの皆さんに恵まれたことで成長することができたとおっしゃっています。

諏訪を皮切りに東京・上田・松本と一貫して営業の仕事に携わりました。竹内さんはお客様との「距離感」を大切にされてきたそうです。お客様にとつての心地よい間合いで本音を理解し、お客様本位で心からの納得や満足を提供しようとする姿勢のことと筆者は理解しました。仕事を放れたころでも、天体観測の同好会活動やインターネットのブログ(情報発信)といった多才さを発揮されているバイタリティ溢れる方でした。

道祖神の世界と楽しみ

五四期 石田 益雄



石田 益雄 さん

道祖神と言いますと、東信地方、ことに上田・小県辺りでは自然石に文字で書かれた「道祖神」碑が圧倒的に多く、また男神・女神が並び立つ姿が彫られた双体像碑は東御市から佐久地方に密に分布すると記憶しています。上田(松尾)高校同窓の皆さんには、きつと子供の頃郷里で道祖神祭りをした体験をお持ちでしょう。

昭和四〇年に飯田風越高校に赴任した私は、先輩教師から「石仏調査」に誘われ、その魅力に引き込まれました。昭和四五年から松本に転じて、「道祖神の宝庫」と言われる安曇野の道祖神探訪を始めました。この底流には上田市塩田での「道祖神祭り」の幼少体験が記憶に残っていた事は否めません。そんな調査経験から、今私たちが勤務・居住する松本地方の道



クジャクチョウ 於 松本市奈川 画 武村洋治(58期)

祖神についてお話ししたいと思います。まず全国的な道祖神碑の分布は、本州の青森から島根辺りまで、多少の差はあっても分布が見られると言いますが、何と云っても中部近県の新潟・群馬・埼玉・山梨・静岡・愛知・岐阜・富山と長野県の周りに多く分布しています。それと神奈川県・鳥取県



双体像碑・文字碑

島根県にも多くの報告があります。「道祖神」と書かれた文字碑と、男神・女神が並び立つ双体像碑は長野県、群馬県と神奈川県は濃密な分布を誇っています。長野県内では中信・東信・南信・北信の順と思われまます。中信での道祖神の数は、南北安曇で一〇

〇〇基、松塩筑で一〇〇〇基の総計二一〇〇基位が存在します。ところで、道祖神とはどんな神様かとお尋ねがあります。なかなか複雑に俗信が習合していて、民俗学の先生方でも定説を見出せないままのようです。日本古来の自然神の考え方

らは、農耕の小集落を護ってくれる神として、祖霊神や生殖(性)の神・生産の神が自然の石(石棒・陽石・陰石・奇石などに宿ると考えられ、村人からは子孫繁栄即ち縁結び・夫婦和合・子宝祈願・安産祈願・子供の守り神などの祈願がなされ、生産の神として五穀豊饒が祈念されたのでしよう。

一方、「境の神」として集落に悪霊・疾病・災害などが侵入するのを遮る守り神が必要でありました。村の開拓時代に掘り出された石を祀り、塞の神(サヘノカミ)としました。また、庶民の生活を脅かす御霊・怨霊・死神・貧乏神・自然災害(地震・雷・洪水・火災・害獣害虫など)に対して慰霊鎮魂して祭神・守護神として神格をもた

せ、被害を最小限に止めようとした。具体的な神の名として記録に現れた例として、古事記・日本書紀のイザナギ・イザナミの國生み伝説のなかで、幾柱かの「サエノ神」が生まれたとする神話があります。また、古く京都の四隅の道で悪霊の侵入を防ぐため行われた「道饗祭ミチアエノマツリ」の祝詞には、ヤチマタヒコノカミヤチマタヒメノカミフナドノカミの名が記されています。その他、和名抄はじめ古典文書のなかにも神名が散見されると言います。

もう一つは、中国古代の思想に、旅立ちに臨んで道路の神を祭る、「手向けの神」の風習が有つて、これが我が国に移入し「道の神」として習合したと考えられると言います。さて、安曇野市にある道祖神は双体像碑三〇三基と文字碑二五六基自然石二四基ほどの数が有ります。やはり注目されるのは双体像碑で、寛保元年(一七四一年)の年銘が古く、その後寛政年代(一七八九年)から幕末(一八六七年)にかけて集中的な造立が見られます。初期のものは二神が手を握り



道祖神の御柱祭

合つて並ぶ簡素なものが多く(握手像)、しだいに飄箆と杯を持つて祝婚の姿を現した豪華なものになってきます(酒器像)。その彫り方が巧みで、衣装や表情・ポーズが端正なことが、神威ともに信頼出来る親しさをも表していて、村人の尊崇を受けとめ、今日でも人気の高い秘密もここに有ると思えます。文字碑にしても揮毫者の署名もあつて、能筆ぶりが遺憾なく発揮されているものもあり、捨て難い魅力があるのです。

そして何より、「道祖神の御柱」や「三九郎(どんと焼き)」のような冬の祭り、旧の七夕から「お盆」に行われる「道祖神と七夕祭り」「山車曳き」などの夏祭りを始め、四季折々に特異な道祖神の祭りが集落毎に残っている所が多く、市や県の無形民俗文化財に指定されているものも幾つか有ります。松本地方の道祖神を訪ね祭りを求めて、村々を探訪してみたいかがかと、お勧めいたします。

大槻 広(43期) 松本市
昭和二四年からアルプスの山に登りたくて、中川・会田・広津・明科・豊科・塩尻・堀金・波田の各中学校に勤め、定年後は波田学院の講師として七年間勤めて参りました。現在は松本市内で悠々自適の生活を送っております。八〇才を過ぎましたが、元気です。

藤澤 良彦(52期) 松本市
昨年は旅行続きでした。一月ロシアへ、三月バリ島、四月北欧フィヨルド五ヶ国、六月タイへ、七月済州島へ、九月ペルーのマチュピチュへ、十月アンコールワットへと楽しい外遊でした。一月の第九演奏会は皆様の協力で芸術館満席で、演奏も藤沢市からの応援をもらい大好評でした。



会員短信

昨年の遠征人がきなどから

田中 瑞穂(58期) 伊那市
長い間休んでいた合唱を入団資格六〇才以上の女性という団体で始めました。二〇一〇年六月に地域で取り組まれるドヴォルザーク「スターバト・マーテル」の団員募集にも応募。初挑戦です。

村上 道夫(48期) 松本市
相変わらず元気でゴルフと旅で余生を過ごしております。

丸山(伊藤) 勝彦(61期) 安曇野市
銀行を定年退職して早や六年余。八人に増えた孫の相手と一向に上達しない野菜作りに苦戦しております。

林 庄平(52期) 下諏訪町
菜園で土に親しむ時間を多く使って居ます。仲間とそばの播種・手入れ・刈取り・脱穀をし、月毎にそばを趣食して楽しんでいきます。

前澤 隆男(64期) 松本市
一九九年度をもちまして教員を定年退職しました。市当局はじめ多くの方々に大変お世話になりました。現在、市教育会専任幹事としてお世話になっていきます。

吉村 哲郎(66期) 松本市
昨年十月の第四八回66期ゴルフコンペで優勝しました。

梨子田 雅直(79期) 松本市
昨年のお盆に上田高校軟式庭球班のOB会に参加し、先輩や後輩と共に久しぶりに効果を歌いました。

加藤学さん(85期)衆院選当選



先の第45回衆議院議員総選挙において、長野県第5区から立候補した民主党の加藤学さん(85期)が当選しました。

塩田出身で高校時代は山岳班に所属。現在は飯田に居を構え、南信の発展に尽力してきました。

今後の益々の活躍をお祈りします。

職域幹事変更

◎県職員の林信一さんの転勤に伴い、後任として中沢守人さん(長野県計量検定所:74期)が県職員の職域幹事となりました。

◎八十二銀行の宮下友博さんの転勤に伴い、後任として大井辰一さん(松本営業部:81期)が八十二銀行の職域幹事となりました。

会費納入へのお礼

支部財政改善のため、一昨年度より会費制を導入し、昨年も100名の会員の皆様から会費を納入いただきました。

ご理解とご賛同に御礼申し上げますと共に、引き続きのご協力をお願い致します。

星の降る里同好会のご紹介

今回職場訪問でインタビューした竹内昌弘さんが活動している「星の降る里同好会」をご紹介します。



原村八ヶ岳自然文化園を拠点とする天体観測の同好会です。特に天文に詳しくない方むけに月1回の観測会を実施しています。10年以上続いている観測会で、通算150回を越える実績があります。

また、毎年8月第一週末に開催される「サマーホリデー in 原村星まつり」は昼夜にわたりイベントを繰り広げるおまつりで、毎年数千人の来場者があります。

秋の夜長、原村に足を運んでみてはいかがでしょうか。

ホームページ <http://www.lcv.ne.jp/~kasugahi/akibeya2.htm>